

# 『太平記理尽図経』覚書

## — 『太平記秘伝理尽鈔』研究』補遺稿4 —

今 井 正之助

はじめに

〔平成三十年度 東京古典会 古典籍展観大入札会〕に『太平記理尽図経』（以下『図経』）が出品され、一月一六日の展観で当該書を短時間ではあるが拝見した。新出の写本（以下、仮に「東京古典会本」と呼ぶ）であり、本稿副題の拙著の関連部分の補訂をかねて、覚書を記す。

### 一、東京古典会本の概要

『古典籍展観大入札会目録』三四八番、一四頁に  
太平記理尽図経 江戸前期写 彩色図入 金泥題字 列  
帖装 五卷并追加 六冊  
と説明がある。私にいささか補う。

- ・大本列帖装六帖。
- ・青綠色、紺繫ぎ牡丹唐草艶出表紙。
- ・表紙左肩に、金泥で二重線枠内に「理尽図経第一（〜第五、追加）」と直書。
- ・内題「太平記理尽図経巻第一（〜第五）」。「追加」帖は内題なし。
- ・本文料紙鳥の子、見返し共紙。
- ・半葉一〇行漢字片仮名交じり。「追加」を除き、朱点・朱引あり。墨書付訓は異筆も混じるか。彩色図入。
- ・蔵書印、奥書等なし。
- ・後表紙見返し綴じ目近くに以下の記載あり。他の伝本では見かけず、全体像・意味する所もわからない。  
第一「春ノ巻 壹」、第二「夏ノ巻ノ壹」、第三（なし）、第四「冬ノ巻ノ式」、第五（なし）、追加「秋

ノ巻ノ壹

拙著第四部第一章に記したように、『図経』写本は、次のように分かつた。

〈版本と同系統の写本〉

…石川県立歴史博物館蔵本（以下「石川歴博本」）、肥前島原松平文庫蔵本（以下「島原本」）

※巻一本文冒頭「山法師トモ取物モトリアヘズ…」

〈別系統（山家家本系統）〉

…平戸山家家蔵本（慶應義塾大学斯道文庫蔵マイクロフィルムに拠る。一冊。第一上・下、第二上・下、第三に分かつ）、中西達治氏蔵本（一冊。第一上・下、第二上存）、滋賀大学附属図書館蔵本（一冊。第一上のみ存）、大阪府立富田林高校菊水文庫蔵本（一冊。部分存）

※第一本文冒頭傍線部「南岸田宗勝行早雄ノ同宿トモ」

石川歴博本に「追加」があり、実質六巻である他は、両系統ともに五巻構成である。東京古典会本は「五巻并追加」であり、石川歴博本との関わりが注目される。

巻一本文冒頭により、東京古典会本は版本系統に属する。

さらに、『目録』一〇五頁に、版本（内閣文庫蔵明暦二年中野是誰梓行本）巻四10オ10シ11オに相当する箇所の見開き写真が載る。これを参照し、版本、石川歴博本、島原本と比較すると次のような相違が認められる。

東…国兵騎馬スクナケレハ角舟ニテヨセタリケルニヤ

（※石川・島原同じ。版本「トニヤ」）

東…江州東坂本軍之事 太平記ノ本経ニ詳也

（※石川、同じ。島原「太平記ニ詳也」。版本「太平記ノ本経ニ評アリ」）

東…伝云寄手・三万余七ヶ所ニ陣ス。廿二備也。

（※石川・島原同じ。版本「二十一」）

東…タトヘ菊池宇都宮不<sub>ト</sub>進<sub>ト</sub>云トモ義貞ノ二万ノ勢ヲ

（※石川・島原同じ。版本「トモ」）

いずれも微細な異同であるが、石川歴博本に最も近い。

ただし、東京古典会本のみ異同や次に示すような奇妙な付訓がある（他の箇所にも散見したと記憶する）。

・「義貞ノ二万ノ勢ヲ以テタ、カハンニ【<sub>ノ</sub>登<sub>ニ</sub>】余ノ兵見物シテアラシヤ」（傍線部は石川・島原「タ、カハレンニ」、版本「<sub>ノ</sub>戦<sub>カ</sub>レンニ」）

※【】で括った部分の付訓は、「豈」を「登」と誤読したものの。石川・島原付訓なし。版本「<sub>ノ</sub>登<sub>ニ</sub>」。

・「唐崎ノアタリマテ【拙ク】軍立シケルヲ戦ハ勝ナント也」※石川・島原付訓なし。版本「拙ク」。

付訓は異筆とも考えられるので措くとして、石川歴博本とは以下に示すような、重要な相違がある。

〈第一〉

石川歴博本には目録の前に「太平記理尽図経序」（拙著三五六頁）があるが、東京古典会本にはない。

卷末は「…將ノ智謀ナキ故ト覺テ最浅マシキニヤ」（引用は石川歴博本）まで。石川歴博本には、「此図ハ大法也一方明テ責ル口伝アリ」（挿図）と続くが、本書にはなし。

〈第五〉

石川歴博本の卷末には、「慶安第四稔初冬吉且／從四位上行羽林兼周防太守源重宗」と記す跋文（拙著三五〇頁）および「寛文四年極月吉日 大橋全可 貞清（花押）／井村源太夫殿」と記す加証奥書（拙著一八七頁注（6））があるが、本書には存在しない。

〈追加〉

拙著三五四頁で、石川歴博本について次のように記した。

第六帖は、総論的な記述（見出し無し）に次いで、「赤松戦法伝」「正成湊河伝」「桃井直常戦法伝」「正行四条繩手伝」と続く。

正確には、「正行四条繩手伝」の次に「正儀摂州中嶋合戦伝」がある。

東京古典会本の「追加」帖には、石川歴博本の総論的な記述（見出し無し）はない。目次を転記すると次のようであり、大きく異なる。

一 將軍自西国御上洛ニ付テ南方軍評定ノ事廿九卷

一字都宮ト桃井名和野軍ノ事卅ノ卷

一 神南合戦ノ事 卅二ノ卷付七謀ノ事

一 菊池六笠ノ城引兵ノ事 卅三ノ卷

一 菊池筑紫合戦ノ事 卅六ノ卷

一 箕浦ト楠ト摂津国中嶋合戦ノ事 十死一生存戦 卅八卷

一 正成討死ノ事 湊川合戦ノ図

一 正行討死ノ事 四条繩手合戦之図

以上、東京古典会本は、石川歴博本と同じく「追加」を含む六帖構成であり、本文的にも近い面があるが、直接のつながりは認められない。

## 二、島原本補訂

島原本について、当時の調査メモにもとづいて、拙著三五三頁に「巻五を欠く四卷四冊」と記したが、国文学研究資料館の公開画像を確認し、以下のように訂正する。

「五卷四冊（第四冊に巻五合綴）。また、三五四頁六行目に「島原本（跋の存否は不明）」と記したが、跋はない。

なお、島原本の巻五は、「足利直冬ト宮下野入道ト備後ニテ合戦之事」（版本巻五11オ）までで、その次の「宇都宮芳賀ト鎌倉基氏武藏野合戦之事」を欠く（巻頭の目録にはこの章段名あり）。

拙著三五三頁に〈内題「理尽図経」〉と記したが、巻二

五の内題は「太平記理尽図経」である。

以下は補記。島原本は、版本の写しではないが(①④)、石川歴博本よりは後出と思われる(②③⑤)。

①巻一卷末(版本24ウ相当。版本および石川歴博本は白紙)に左記の記述あり。

一 乱世ノ時ハ治ノ道ヲ以納ムルコト法也 是二色共太宗謂也

一 治世ノ時ハ乱世ノヲルヘキ時ト思フヘシ

一 陰ハ鬼ナリ悪也夜

一 陽ハ神也徳ナリ昼

②石川歴博本・版本の卷三目錄第2章段「大和国辺栗へ楠正成夜寄之事」、第3章段「河内国飯守城軍之事」を、島原本は第2「河内国」：第3「同国」：とする。波線部は誤り。

③石川歴博本・版本は、卷三第2章段を本文中では次のように記す(引用は石川歴博本。句点を補った)。

故高時ノ兄弟子憲法僧正ト云シハ(中略)和州辺栗

ニアリシカ、勢強大ニ成テ河州飯守山ニ楯籠、辺栗

ニ八十市左兵衛ト云者ヲ置シニ、楠正成退治之事

正成云、十市左兵衛カ籠タル辺栗ニハ兵幾ホトカ有ト問

フニ：

島原本は次のようである。

和州辺栗<sup>正成夜寄之事</sup>

故高時ノ兄弟子憲法僧正ト云シハ(中略)和州辺栗ニア

リシカ、勢強大ニ成テ河州飯守山ニ楯籠、辺栗ニ八十市

左兵衛ト云者ヲ置シニ、楠正成退治之事△正成云、十市左兵衛カコモリタル辺栗ニハ兵幾ホトカアルト問ニ：

波線部に明らかかなように、島原本の先行形態も石川歴博本・

版本と同様であつたと思われる。島原本は、先行形態の章段

名が異例の長文であることに違和感を覚え、本文行に繰り込み、新たに「和州辺栗<sup>正成夜寄之事</sup>」という章段名を立て

たものであるう(ここでは島原本卷三目錄の「河内国辺栗」

という誤りは解消されている)。

④同じ章段(版本卷三4ウ)に、石川歴博本には口伝傍書が

二ヶ所あるが、島原本にもあり(版本には無し)。

⑤卷四末尾二章段「越前国黒龍ニテ」：「越前国安居ニテ」

の順が逆(巻頭目錄の順は版本・石川歴博本と同じ)

おわりに

以上、『太平記理尽図経』新出写本の紹介および旧稿の補訂を行った。

(いまい・しょうのすけ 本学名誉教授)